

看学生通信

第2号 2013年 9月
鳥取民医連看学生委員会発行



看護学生のみなさんこんにちは。

今年の夏も暑かったですね。みなさんはどんな夏を過ごされましたか？やりたいこと、やろうと決めていたことが出来て、すっきりした気持ちで新学期を迎えられているといいですね。

鳥取医療生協では、看護学生さん向けに様々な企画を開催したので、様子をご紹介します。

看護学生の学習&交流会

毎年8月に開催されている、中四地協 DANS という、中四国地方の看護学生のつどいが、8月10・11日に、岡山で開かれました。今回で10回目の開催になりますが、学生・職員あわせ約130名が参加し、大いに学び、楽しみました。鳥取からは5名の学生さんが参加されました。今回の学習では「ハンセン病」の歴史について学び、人権について考えてきました。実際に長島愛生園を訪れ、納骨堂や以前の収容所等の見学や、元患者さんのお話を聴かせていただいたりしました。同じ過ちを繰り返さないために、自分たちに何が出来るのかを考えさせられました。

また、夜には白衣のファッションショーやゲームなど盛り沢山の企画で交流も楽しむことが出来た会となりました。毎年開催しているので、興味のある方はご連絡ください。



白衣のファッションショーはこんな感じです☆分かりづらいですが、左は鳥取学生がダルビッシュのお面を付け、「女々しくて」を踊っています♪

右は香川学生&職員がゴリエの「ペコリナイト」を踊っています♪最初はただ歩くだけのファッションショーでしたが、10回の開催を経て、踊りや笑いの入ったショーに進化しました。

↑左は長島愛生園の歴史館の中の様子です。ボランティアの方がハンセン病の歴史や隔離政策がとられていた頃の長島の様子を説明してくださいました。右は以前ハンセン病患者の方が島へ到着した際、一番最初に降り立つ船着き場の様子です。家族と来た方はここで家族と別れました。



看護体験の様子



6月の通信でお知らせしていた看護体験ですが、今年も多くの学生さんが参加されました。学生さんの希望により、今回は鳥取生協病院、鹿野温泉病院、わかさ生協診療所、せいきょうこどもクリニックで体験を受け入れていただきました。

学校の実習では見学出来なかった検査や処置が見られたり、学校ではまだ生徒同士でしかやったことがないケアを実際に患者さんにさせていただいたり、貴重な体験が出来たようです。

感想の一部を紹介します。

- ・学校で習っていた廃用症候群の患者さんが多かったのも、とても勉強になりました。また、3日間と短い間でしたが、担当の看護師さんも他の職員の方も優しく接して下さったので、時間が過ぎたのがとても速かったです。また自分の興味のある、訪問看護を長い間されていた看護師さんに体験談や必要な勉強や資格などを聞くことが出来たので、とてもよかったです。(鹿野体験者)
- ・担当の方を始め、関わって下さった方に、この治療が何のために行われているか、今はどんな状態でどうなったらよくなるのか、どんなことに気をつけなければいけないかなど、丁寧に教えていただき、学校の授業でやったことが更に深まり、新しい知識が身につきました。(生協病院体験者)
- ・学校で足浴や洗髪を学んだり、練習をしてはいましたが、実際に患者さんと向き合うと、とても緊張して自分に出来るのかと不安になりました。看護師さんが優しく教えて下さったり、サポートして下さったので落ち着いてすることが出来ました。(生協病院体験者)
- ・総合病院とは違った体験が出来て、とても為になりました。診察以外にもデイサービスや入院されている患者さんもいて、イメージと違っていたので驚きました。実習でも体験したことがなかったので、デイサービスはとても印象に残り、為になりました。(わかさ診療所体験者)

国試対策勉強会

今年も、8月15日～17日の3日間、卒年生向けに国試対策勉強会を開催しました。15名の卒年学生さんが参加し、みなさん集中して勉強会に臨まれていました。

参加された学生さんからは、「先生の解説が分かりやすくてよかった」「1つ1つの問題を解説してもらえると置いていなかったのがよく分かった」「国試の勉強法がわかった」等、参加してよかったという感想が多く見られました。

また、最終日には先輩新卒看護師2名より、国試対策の勉強の体験談や、アドバイスをしてもらいました。

ちなみに、今回お話をしてくれた看護師さんは2名とも国試前日は緊張や、ホテルのベッドの悪さで眠れなかったそうです。安眠グッズも用意されるといいかも！とのことでした。



意見・要望、質問等がある方は、気軽に右記までご連絡下さい。

〒680-0833 鳥取市末広温泉町566
鳥取医療生協 看護学生担当 米井
電話 (0857)-24-6161